

# 民主化闘争情報

No. 931  
2015年8月18日  
発行 日本鉄道労働組合連合会  
(JR連合)

JR連合に加盟するJR北海道労働組合（JR北労組）において、8月17日に定期大会後初の組織拡大を果たした。JR北労組では、昨年度だけで12人の組織拡大を達成しており、JR北海道の再生と風通しの良い企業風土づくり、利用者・道民から信頼を得る取り組みに対して、確実に支持が広がっている。

## JR北労組が組織拡大

### 24歳の青年が北鉄労を脱退し、JR北労組へ加入！

### 世話役活動や業務への真摯な姿勢が共感得る

加入したのは24歳の青年であるが、北鉄労（JR北海道労組）を自らの意思で脱退し、8月17日付でJR北労組に加入した。組織拡大を達成したJR北労組函館地区本部五稜郭車両所分会は、「社員間の親睦を図ることは、安全を確保する上でも大切なこと」を合言葉に取り組み、日頃の世話役活動や業務に対する真摯な姿勢を通して、JR北労組に対する共感を得て、加入に至ったものである。

今回の組織拡大についてJR北労組は、「組合を脱退するか否かは本人の自由であり、誰からも強要や強制されるものではない。北鉄労は組合員の不平・不満を解消することができず、瓦解の始まりが全道に広がっている」として、今後も組織拡大に取り組む決意を明らかにしている。

### 島田社長が企業風土改革に取り組む姿勢示す

一方、北鉄労は6月14～15日にかけて、札幌市内で第30回定期大会を開催した模様である。定期大会の様子を報じた旬刊ACCESS（2015年7月1日号）によると、大会に来賓として出席したJR北海道の島田修社長は、この1年でも記録的豪雪による輸送障害、青函トンネル内の特急列車発煙などに加えて、コンプライアンス事象が多数発生していることから、**「言うまでもなく、安全問題と企業風土改革は表裏一体のものであります。今後も気を許すことなく、しっかり風土定着に向けて取り組んでいきたい」**と挨拶するなど、引き続きJR北海道の企業風土改革に全力で取り組んでいく姿勢を明確にしている。

JR連合及び加盟する各単組は、今回加入した仲間を心から歓迎するとともに、民主化闘争の更なる前進にむけて、より一層奮闘していく決意である。とりわけJR北労組は、2011年5月27日に発生した石勝線列車脱線火災事故以降も相次いだ事故や不祥事と真摯に向き合い、JR北海道の再生へ奮闘しており、最大限の支援を行っていく。

安心して働くことができる職場を構築するため、JR連合・JR北労組に結集しよう！